

アレルギー性疾患治療剤

薬価基準収載

# オキサトミド錠 30mg 「クニヒロ」

Oxatomide Tablets 30mg 「KUNIHIRO」



## 禁忌（次の患者には投与しないこと）

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 [「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照]

効能効果、用法用量、禁忌を含む使用上の注意等については、DI 欄をご参照下さい。

製造  
販売元

**皇漢堂製薬株式会社**

医薬営業部

兵庫県尼崎市長洲本通 2 丁目 8 番 27 号

TEL : 06-6482-5115 FAX : 06-6482-7492

2011 年 8 月改訂（第 5 版）

## オキサトミド錠 30mg「クニヒロ」

Oxatomide Tablets 30mg「KUNIHRO」

Drug Information

## 組成・性状

販売名	オキサトミド錠 30mg「クニヒロ」			
成分・含量	1錠中にオキサトミド30mgを含有する。			
添加物	乳糖水和物、トウモロコシデンプン ポリビニルアルコール(部分けん化物)、ステアリン酸マグネシウム			
色調・性状	片面割線入りの白色の素錠である。			
外形・サイズ	表 	裏 	断面 	直径: 7.0mm 厚さ: 2.5mm 重量: 120mg
識別コード	KSK105			

日本標準商品分類番号	87449
承認番号	22300AMX0045900
承認年月	2011年1月
薬価収載	2011年8月
販売開始	2004年8月

## 使用期限

製造後3年

## 貯法

室温保存

## 包装

PTP: 100錠(10錠×10)、1000錠(10錠×100)

## 禁忌(次の患者には投与しないこと)

- 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人〔妊婦、産婦、授乳婦等への投与〕の項参照〕

## 効能・効果

アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚掻痒症、湿疹・皮膚炎、痒疹

## 用法・用量

通常、成人には1回オキサトミドとして30mg(1錠)を朝及び就寝前の1日2回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

## 使用上の注意

## 1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- 肝障害又はその既往歴のある患者〔肝障害が悪化又は再燃するおそれがある。〕
- 幼児〔小児等への投与〕の項参照〕

## 2. 重要な基本的注意

- 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。
- 本剤は気管支拡張剤並びに全身性ステロイド剤と異なり、既に起こっている喘息発作を速やかに軽減する薬剤ではないので、このことは患者に十分注意しておく必要がある。
- 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイド減量を図る場合には十分な管理下で徐々に行うこと。
- 本剤により、末梢血中好酸球が増加することがあるので、このような場合には経過観察を十分に行うこと。
- 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考慮して、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。

## 3. 相互作用

## 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アルコール飲料 中枢神経抑制剤 麻薬性鎮痛剤、 鎮静剤、催眠剤等	眠気、倦怠感等が強くなり、 おそれがある。	相加的に作用する。

## 4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

## (1) 重大な副作用(頻度不明)

- 肝炎、肝機能障害、黄疸: AST(GOT)、ALT(GPT)、 $\gamma$ -GTP、ビリルビン、AI-P、LDHの著しい上昇等を伴う肝炎、肝機能障害、黄疸(初期症状: 全身倦怠感、食欲不振、発熱、嘔気・嘔吐等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、呼吸困難、全身紅潮、咽頭・喉頭浮腫等の症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、中毒性表皮壊死症(Lyell症候群)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

## (2) その他の副作用

下記のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には減量・休薬等の適切な処置を行うこと。

	頻度不明
錐体外路症状 <sup>注1)</sup>	硬直(口周囲、四肢)、眼球偏位、後屈頸、攣縮、振戦
過敏症 <sup>注2)</sup>	発疹、浮腫(顔面、手足等)
内分泌	月経障害、乳房痛、女性化乳房 <sup>注2)</sup>
精神神経系	眠気、倦怠感、口渇、頭痛・頭重、めまい・ふらつき・立ちくらみ、しびれ感
泌尿器	膀胱炎様症状(頻尿、排尿痛、血尿、残尿感等)、 排尿困難
消化器	嘔気・嘔吐、胃部不快感、下痢、便秘、胃痛、腹痛、食欲不振、食欲亢進、にがみ、腹部不快感、口内炎、舌のあれ
循環器	動悸
その他	好酸球増多、ほてり、鼻出血、発熱

## 注1) 投与を中止すること。

また、必要に応じて抗パーキンソン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

## 注2) 投与を中止すること。

## 5. 高齢者への投与

本剤は、主として肝臓で代謝されるが、高齢者では肝機能が低下していることが多いので、慎重に投与すること。

## 6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。〔動物実験(ラット)で口蓋裂、合指症、指骨の形成不全等の催奇形作用が報告されている。〕
- 授乳婦に投与する場合には、授乳を中止させること。〔動物実験(イヌ)で乳汁移行が認められている。〕

## 7. 小児等への投与

幼児(特に2歳以下)において錐体外路症状が発現するおそれがあるため、過量投与を避けること。

## 8. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤の投与は、アレルギー皮膚内反応を抑制し、アレルギーの確認に支障を来すので、アレルギー皮膚内反応検査を実施する前には本剤を投与しないこと。

## 9. 過量投与

頭部硬直等の錐体外路症状、痙攣、意識障害、傾眠、血圧低下、洞性徐脈、縮瞳等が発現した例があるので、過量に服用した場合には、支持・対症療法等適切な処置を行うこと。

## 10. 適用上の注意

薬剤交付時: PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起して縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

\*詳細は添付文書等をご覧ください。「禁忌を含む使用上の注意」の改訂に十分ご留意下さい。